インド，西ベンガル州タムルク地域における市の分布と特性

石原　潤・溝口常俊

1. はじめに

筆者らは文部省科学研究費（海外学術研究）の援助を受けて，数年来インド亜大陸農村部における伝統的市に関する研究を実施し，既にバングラデシュ[1]と南インド[2]に関しては現地調査結果を報告した。本稿はそれらに続いて，1987年の7月から10月にかけて実施した，インド東部の西ベンガル州における現地調査結果の第一報であり，市の分布状況と市の一般的諸特性について論じようとするものである。市商人と購買者の特性や行動に関しては，それぞれ別稿を予定している。

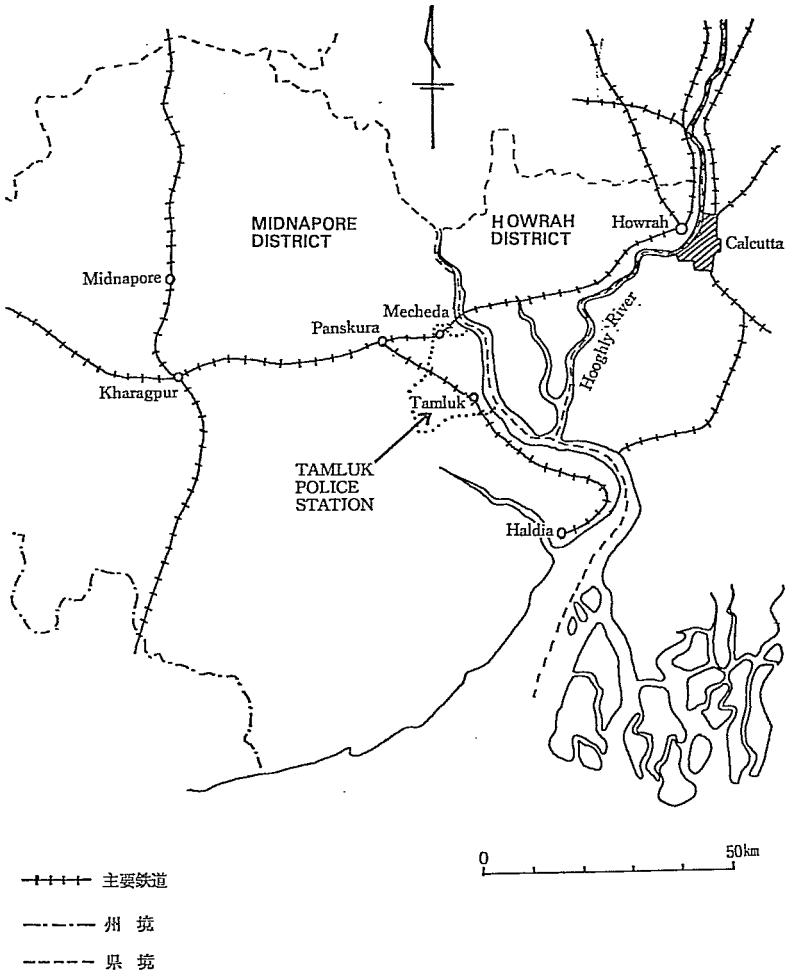
前稿[3]で論じたように，バングラデシュ農村部においては，低次中心地として定期市が重要な役割をはたしており，常設店舗との競合は始まってはいるものの，定期市の開設が今なお進行している。これに対して，工業化や農業の商品経済化がある程度進んでいる南インド・タミルナード州の農村では[4]，他の流通チャンネルに比べ定期市の役割が相対的に低下しており，定期市の淘汰現象も現われてきている。それでは，工業化や農業の商品経済化が一層進んでいると推定される西ベンガル州農村部では，事情は如何であろうか。西ベンガル州は一方で，旧ベンガル地方の一部として，自然環境やその歴史・言語等でバングラデシュと多くの共通点を持っている。バングラデシュともタミルナードとも興味深い比較が出来る場として，西ベンガル州を研究対象地域として採り上げた。

広大な西ベンガル州内で，具体的な現地調査対象地区としては，ミドナポール県（Midnapore District），タムルク亜県（Tamluk Sub-division）内のタムルク警察管区（Tamluk Police Station）を選択した。当地区を選んだ理由は，①西ベンガルの典型的な農村地域の一つであること，②約20年前に広島大学による農村調査が行われた[5]地域であり，時系列比較を試み得る可能性があること，及び③筆者らが以前に現地を訪問したことがあり[6]，土地勘を持っていることである。なおベンガル地方では警察管区（以下管区と略称する）は *Tana* とも呼ばれ，農村地域ではほぼ日本の郡と同程度の面積と人口を有している。

ミドナポール県は西ベンガル州の南西部に位置し，工業化・都市化の進んでいる同州にあって，比較的農村的色彩をよく残している県である。タムルク管区は同県の東部にあって，その東

側はルプナラヤン（Rupunarayan）川に面している。州都カルカッタからは，ハウラー駅より郊外電車で1時間半～2時間で，管区北端のメチェダ駅に到着する（第1図参照)。カルカッタからは国道を走る長距離バスの便もある。管区の大部分はカルカッタ方面への通勤圏の外にあるが，商業活動等に関しては，カルカッタ大都市地域との結びつきは強い[7]。メチェダから，管区の中心であり，かつ亜県の中心でもあるタムルクの町（人口2.9万）へは，バスで更に30～45分を要する。

タムルク管区は面積243km²，人口29.4万（1981）で，人口密度は1,210人/km²と農村地域としては著しく高い。就業者の産業別構成は第1表の通りで，耕作農民及び農業労働者があわせて52.6%とドミナントであるが，手工業の従業者が13.7%とかなりの数にのぼることが注目される。農業の中心は米作であるが，経営耕地面積が一般に著しく零細であるため[8]，大部分の農家で



第1図 調査対象地域の位置

第1表　就業者の産業別構成

	男	女	計（%）
耕作農民	25,350	758	26,108（34.9）
農業労働者	12,751	510	13,261（17.7）
手工業者	8,750	1,544	10,294（13.7）
その他の就業者	23,772	1,432	25,204（33.7）
計	70,623	4,244	74,867（100.0）

（資料）1981センサス

は自給の域を出ないと推測される。むしろ当地域で重要な農産物は，インド人の嗜好品であるビーテルリーフ（キンマの葉）であり，本管区はベンガル地方で最重要な生産地域をなしている。手工業としては，本管区を中心にタムルク亜県一帯に展開している綿の手織物工業が重要であり，土地を全く持たぬか，わずかしか持たない中下層農民の当工業への参入が進んでいる。

管区内住民の90.3%はヒンドゥー，9.7%がムスリムである（1961年センサス）。ヒンドゥーのうち圧倒的にドミナントなカーストは，地方的な農民カーストであるマヒショー（*Mahisya*）である。指定カーストの構成比は7.16%，指定部族民のそれは0.1%であまり高くない（1981年）。住民の識字率は男性が62.7%，女性が33.4%と，インドの農村部としては高い値を示す（1981年）。

管区内には舗装されかつバスが運行されている幹線道路が4本走っている。①メチェダからカルカッタの新しい外港ハルディア（Haldia）を結ぶ国道41号線，②メチェダ〜タムルク道路，③タムルクと隣接パンスクラ（Panskura）管区の中心パンスクラを結ぶ道路，④タムルクと隣接モイナ（Moyna）管区の中心モイナの対岸 Srirampnr とを結ぶ道路，以上の4本である。後述するように，それらの開設が市や中心集落の発展に与えた影響は大きい。舟運はルプナラヤン川やいくつかの運河・中小河川で今なお行われているが，バングラデシュ農村に比べれば，その重要性は低い。鉄道はメチェダを通る幹線の他，パンスクラからハルデイアへ向う支線が開設されたが，後者は単線で貨物輸送中心のため，地域へ与えた影響は小さい。

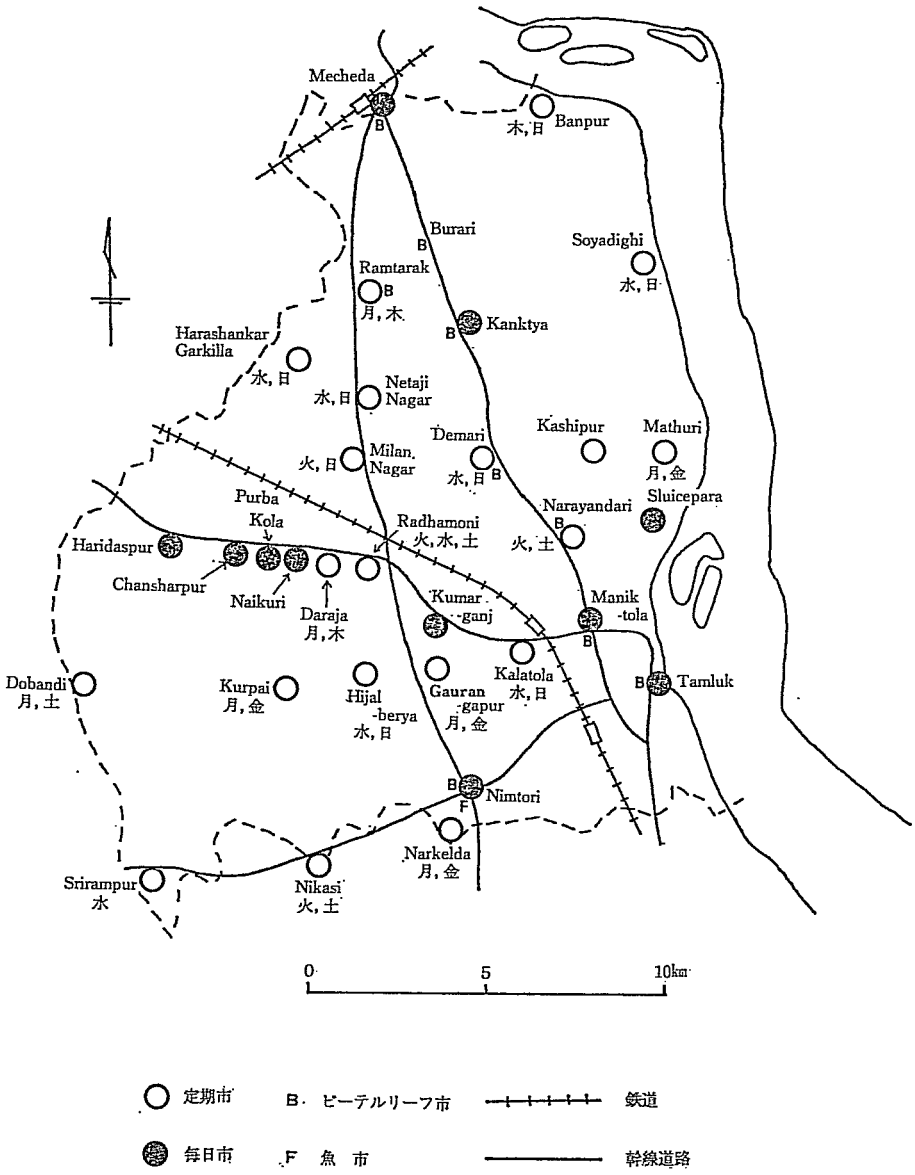
このようなタムルク管区内に，多数の定期市と毎日市が存在している。筆者らはこれらの市の全てを訪問し，市の活動状況を観察し市場の平面図を作成すると共に，市の関係者（所有者，経営者等）に質問紙を用いつつインタビュー調査を行った。なお併せて常設店舗の分布状況をも出来るだけ調査した。以下，これらの現地調査結果を分析し，考察を加えて行きたい。

2.　市の空間的・時間的分布

管区内には1987年現在，定期市が19カ所，毎日市が12カ所，合計31カ所存在する[9]。この状態は，毎日市がほとんど見られなかったバングラデシュやタミルナードと比べて，大いに異なって

いる。またその分布密度も100km² 当りに換算して12.76と，タミルナードの調査地域2.32，バングラデシュのそれで7.88であったのに比べて，著しく高密である。この他管区内には，専門的な商品の集荷市として，ビーテルリーフ市が9カ所，魚市が1カ所存在し，その大部分は毎日開催される。

これらの市の空間的分布状態を示したのが第2図である。図から読みとれるように，定期市は



第2図 市の空間的分布

比較的均等に分布しており，約半数（9カ所）は幹線道路沿いに立地しているが，残り半数（10カ所）は幹線道路からはずれて立地している。これに対して毎日市は，そのほとんどが幹線道路沿いの立地である。このような分布状態は，次節に述べるように，過去から現在に至る市と交通路の史的変遷の結果である。なおビーテルリーフ市と魚市は，出荷の必要から全て幹線道路沿いの立地である。

次に市日について検討すると，定期市の場合，週2回の市が圧倒的（14カ所）で，他に週3回の市が3カ所，週1回の市が2カ所である。この点でも，バングラデシュ，タミルナードの調査地域では週1回の市が多かったのと対照的である。毎日市の場合は1カ所（Kanktya）が日曜を休む以外は，全て週7回の開催である。したがって市の週間平均開催頻度は3.94回と，バングラデシュとタミルナードの調査地域がそれぞれ1.25回，1.09回であったのに比べ，著しく高頻度である。

以上のような市の高密度，高頻度の分布は，基本的には1,210人/km² という当地域の人口密度の高さによって説明されよう。しかしながら，タミルナードの調査地域（人口密度333人/km²）はともかく，バングラデシュのそれ（902人/km²）との人口密度の違いは，それほど大きくはない。第7節においても論じるが，むしろ当地域の商品経済化の進展が，市の高密度・高頻度の分布を支えているように思われる。

ところで，市日の各曜日への配分を，定期市に限って見てみると，第2表の通りである。月・水・日曜の市がやや多いものの，全体としては比較的均等に配分されており，χ^2 検定によっても，均等配置との間に有意な差異は認められなかった。

第2表　市日の曜日別配分

曜　日	定期市数
月	7
火	5
水	8
木	4
金	5
土	5
日	8
計	42

$\chi^2=2.6666$

また定期市の時空間的配置を見ると，近接する市と市の間では，市日の競合を避ける配慮が認められる（第2図参照）。ただし特に日曜日をめぐっては近接市間でも明らかに競合が認められ，その典型的な例は国道沿いに近年開設された Netaji Nagar と Milan Nagar の市の場合である。

市の開催時間を見ると（第3表），定期市・毎日市を合せて，午前のみの市（朝市）が14カ所，午後のみの市が10カ所，午前も午後も開かれる市が10カ所である。一般に朝市は幹線道路からはずれた市（したがってその大部分は定期市）に多く，逆に午後の市又は午前午後共に開かれる市は幹線道路沿いの市に多い。市の最も賑う時間についても同じようなことが言える（第3表）。おそらく幹線道路からはずれた市（特に定期市）は，農民の伝統的な生活様式により対応しているものであり，幹線道路の市は，バス交通や非農民購買者の参加によって変容した姿を示しているものであろう。

第3表　市の立地・開催時間・開設年・近年の趨勢

名　　称	幹線道路立地	市　日	開催時間	最賑時間	開設年	近年の趨勢	その理由
Banpur	×	木，日	午前6～12	午前9～10	70年前	衰退	河道変化，他市との競合
Soyadighi	×	水，日	〃 6:30～10:30	〃 8～9	150年前	〃	道路条件不利，他市との競合，米の供給減
Mathuri	×	月，金	〃 6～9	〃 8	1885年	〃	河道変化，水上交通衰退
Sluicepara (Dhalhara)	×	毎日（日）	午後4～9	午後6～8	1975年	発展	——
Kashipur	×	木	午前7～11	午前8～9	1985年	〃	他の市との中間的位置，道路の改良
Kanktya (Nonakuri)	○	毎日〔日曜を除く〕	午前7～12:30 午後3:30～11	午前9:30 午後4～5	——	〃	需要増
Demari	○	水，日	午前6～11:30	午前8～9	約125年前	〃	需要増，供給増，幹線道路の影響
Narayandari	○	火，木，土	午前8～午後2	〃 9:30	1961年	〃	ビーテルリーフの供給増
Maniktola	○	毎日	午後3～8:30	午後5～7	17年前	〃	人口・需要増，勤労者の増加
Tamluk	○	毎日（月）	午前8～午後8	正午	1921年	〃	人口増，消費水準上昇，ビーテルリーフ市発展
Kalatola	○	水，日	午前5～12	午前8～11	100年前	——	——
Mecheda	○	毎日（火，土）	午前7～12 午後4～10	午前8～9:30 午後6～8	50年前	発展	通勤者増，道路改良，ビーテルリーフ市発展
Ramtarak	○	水，日	午前5～午後2	午前8～12	1899年	〃	——
Harashankar Gorkilla	×	水，日	午後6～9	午後7～8	80年前	〃	道路改良，人口増，農業の発展
Netaji Nagar	○	水，日	午前6～11	午前7～9	1982年	〃	農業の発展，道路改良
Milan Nagar	○	火，土	〃 6～11	〃 8:30	1972年頃	——	——
Radhamoni	○	火，水，土	——	——	100年以上前	——	——
Kumarganj	○	毎日（水）	午後3～9	午後5～7	1967年	衰退	国道が他所を通ったため，バスサービスの不備
Hijalberya	×	水，日	午前8～9	午前9～10	100年以上前	発展	農業余剰生産の拡大，国道建設，運河交通
Gaurangapur	×	月，金	〃 7～10	午前8	300年前	衰退	他市との競合，設備の不備
Nimtori	○	毎日（月，水）	午前4～12 夕方	〃 10	1977年	発展	人口増，国道開通

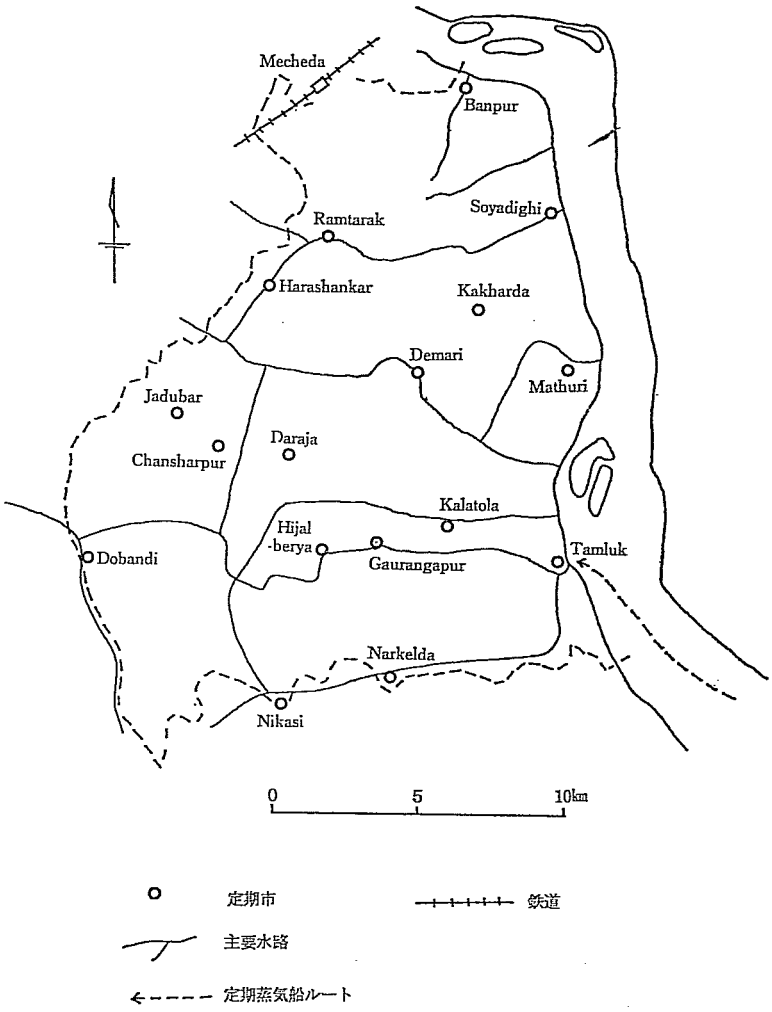
名　　称	幹線道路立地	市　日	開催時間	最賑時間	開設年	近年の趨勢	その理由
Narikelda	×	月，金	午前7～9	午前10:30	100年以上前	発展	国道開通，人口増，農業余剰生産物
Daraja	○	火，木	午後1～7	午後4	約200年前	〃	魚貝の供給増
Naikuri	○	毎日（日）	午前6～11 夕方	午前8	1986年	〃	需要増，供給増
Purba Kola	○	毎日（日）	午前6～11 夕方	〃 7:30～9	25年前	衰退	他市との競合
Chansharpur	○	毎日	午後4～7:30	午後5:30～6	175年前	〃	低農業生産性
Haridaspur	○	毎日	午前6～12	午前6～12	50年前	発展	遠隔地からの商品供給
Kurpai	×	月，金	〃 8～12	〃 9～11	1942年	〃	農業の発展
Dobandi	×	月，土	午後2～8/9	午後4	100年以上前	〃	道路・水路交通の便，人口増
Nikasi (Mirikpur)	○	火，土	午後2～8	〃 7	175年前	衰退	他市との競合
Srirampur	○	水	午後3～7	〃 3～4	50年前	発展	他市との間に一定の距離

〔注〕 1. 幹線道路立地　○ 幹線道路に沿うもの　× 幹線道路から離れているもの
2. 市　日　ゴチは定期市の市日中，より賑わう曜日　（　）内は毎日市が最も賑わう曜日
3. ――は未調査

3，市分布の変遷

前節で見たような現在の市分布の状態は，過去における市の興亡の結果でもある。本節では，19世紀以来市の分布がどのように変遷して来たかを，市関係者への聴き取りと，19世紀末以来の地形図やセンサスの検討を通じて明らかにしたい。

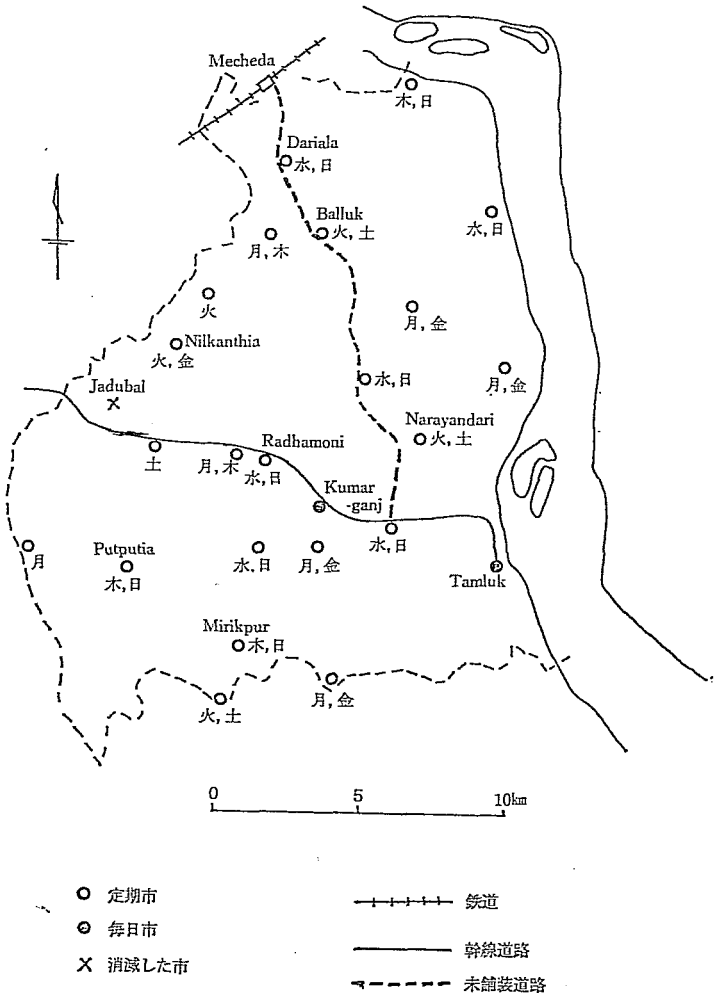
まず第3図は19世紀末，1880年頃の市と交通路の状況を示している。(10) メチェダを通る幹線鉄道はこの頃建設されたが，その影響は未だ顕著には現われていない。管区内には道路らしい道路はなく，最も重要な交通ルートは，ルプナラヤン川とそれに連なる中小河川・運河であったと考えられる。カルカッタとタムルクの町の間には定期蒸気船が運航されており，さらに荷船は



第3図　19世紀末の市と交通路

Mathuri, Soyadighi, Banpur などの河岸(かし)に来航し，そこから中小河川・運河の小舟によって内陸とが結ばれていた。したがって当時の市のほとんどは主要水路沿いに立地しており，管区内にかなり均等に分布していた。17カ所の市が確認されるが，その全てが定期市であったらしい。その中では，ルプナラヤン川沿いの上記の河岸に立地する定期市が，内陸と外部とを結ぶ結節点として大いに賑わったと言う。

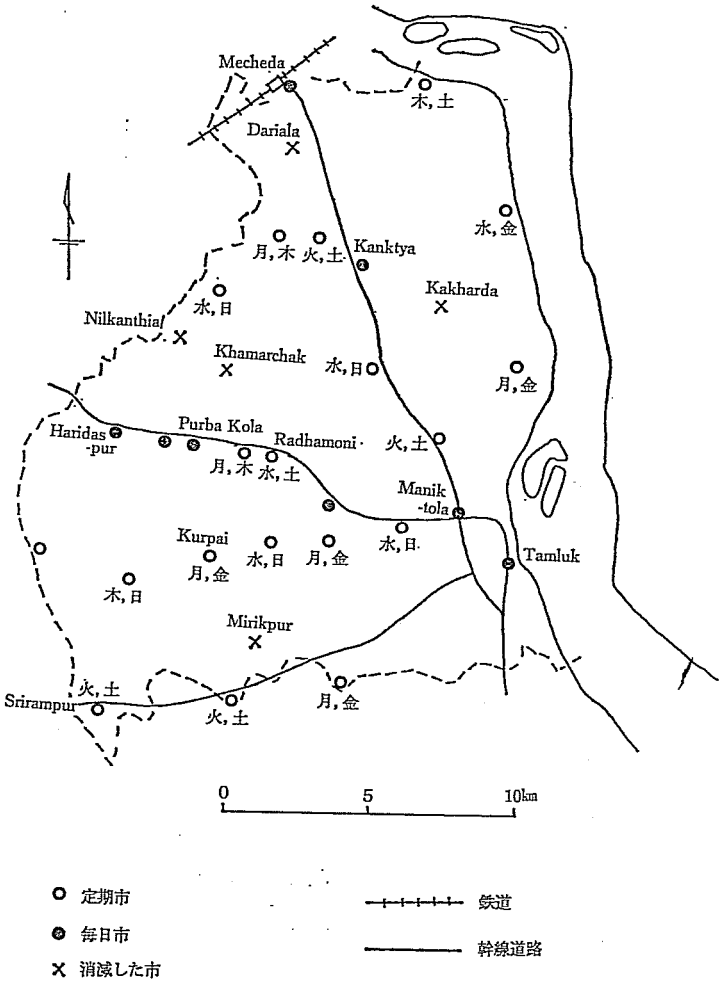
次に第4図は，前図から約50年を経た今世紀前半，1930年頃の市と交通路の状況を示している。[11] まず今世紀の初めにタムルクとパンスクラを結ぶ舗装道路が完成した。次いでタムルクとメチェダを結ぶ非舗装道路（旧道）も建設された。この結果，前者に沿っては Kumarganj と Radhamoni，後者に沿っては Balluk と Dariala の市が新たに開設され，市が水路沿いの立地



第4図　1930年頃の市と交通路

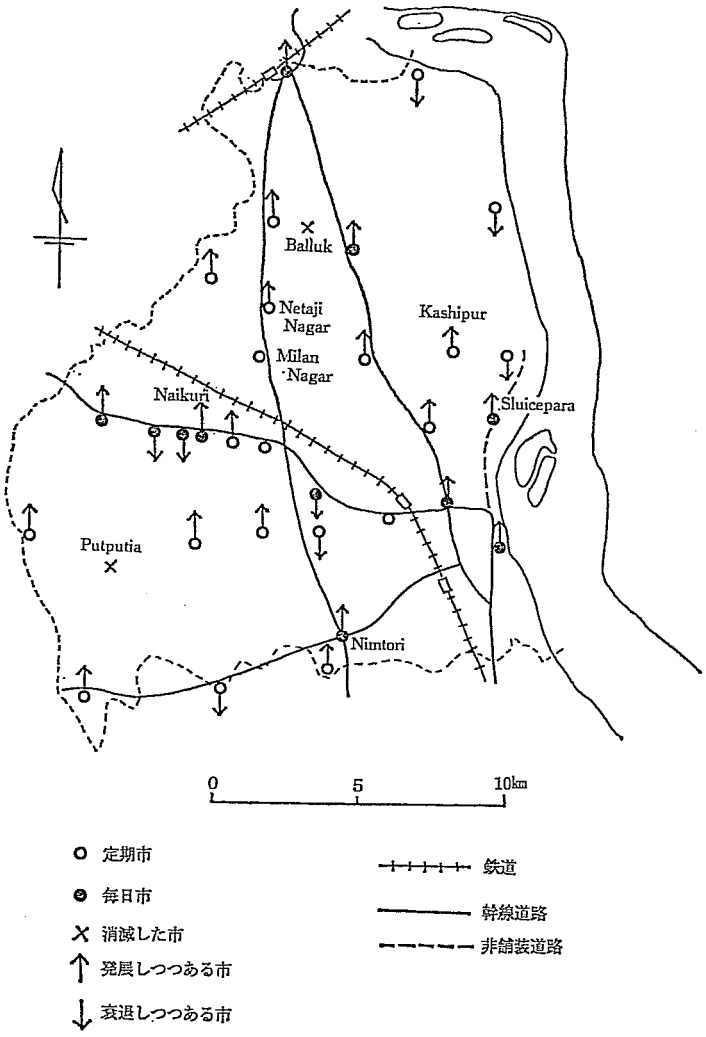
から道路沿いの立地へ移行するきざしが見え始めた。当時の市は管区内で24カ所，うち週1回の市が3カ所，2回の市が19カ所，毎日市が2カ所であった。現在の市日と比べて，開催頻度が低いもの（Harashankar, Chansharpur, Radhamoni, Dobandi）があり，市の曜日の一部が異なるもの（Radhamoni）がある反面，タムルクの市が既に毎日市化しており，幹線道路沿いに新規立地した Kumarganj の市も毎日市であることが注目される。

更に第5図は，前図より約40年を経た1970年頃の市と交通路の状況を示している。(12) この時点までにメチェダとタムルクを結ぶ舗装道路（新道）が完成し，旧道の交通はすたれてしまった。またタムルクと Srirampur を結ぶ舗装道路も完成した。特筆すべきは，これらの幹線道路で，この期間にバス交通が急速に発展したことである。したがって，メチェダ～タムルク道路に沿ってはメチェダと Kanktya に定期市が開設され，まもなく両者共に毎日市へ発展した。また，タムル



第5図 1970年頃の市と交通路

ク～ Srirampur 道路沿いには Srirampur に定期市が開設された。さらに，タムルク～パンスクラ道路沿いにも，Purba Kola と Haridaspur に毎日市が開設され，Chansarpur の定期市が毎日市化し，メチェダ～タムルク道路との交点にも Maniktola の毎日市が出現した。これに対して幹線道路をはずれた場所では，Kurpai の定期市のように開設された市もないではないが，むしろ既存の市が衰退・消滅する傾向が顕著となった。Dariala, Kakharda, Nilkanthia, Mirikpur の各市が消滅し，1930年以降に生れた Khamarchak の市も1970年までには消滅してしまった。なおこの頃までに，ビーテルリーフ栽培の発展により，その集荷を専門とするいくつかの市が幹線道路沿いに成立し，一方 Radhamoni の定期市が手織物製品の集荷市としての機



第6図　現在（1987年）の市と交通路

能を持つに至った。

最後に第6図は，現在（1987年）における市と交通路の状況を示している。この時点までに，パンスクラ～ハルディアの鉄道が管区内を通ることになり，またメチェダからハルディアへ向う国道も管区内を縦断することとなった。前述のように，前者が当地域に与えた影響は大きくないが，後者はバス及びトラック交通を大いに促進し，地域に与えたインパクトは大きかった。この結果，国道沿いに Netaji Nagar と Milan Nagar に定期市が開設され，国道とタムルク～Srirampur 道路の交点 Nimtori には，毎日市と魚市，ビーテルリーフ市が新設された。またタムルクから北へルプナラヤン川沿いにも未舗装の道路が整備されつつあり，それに沿って Sluicepara に毎日市が成立した。これに対して幹線道路をはずれた地域では，Kashipur のように小さな定期市が新設された例もあるが，一般的に市は衰退気味で，Balluk や Potuputya の市は消滅してしまった。この間に市日頻度を高めた市としては，Narayandari, Radhamoni, Dobandi の各市が挙げられる。この期間に Radhamoni 市の手織物集荷機能や幹線道路沿いのビーテルリーフ市の機能は一層高まり，これらの集荷市の所在する集落では伝統的市の繁栄と共に，常設店舗の発展が見られた。メチェダ～タムルク道路に面した Burari では，ビーテルリーフ市の繁栄によって，伝統的市を欠くものの，常設店舗の集積が進んだ。

ところで現在の各市の関係者に対して，近年の市活動の趨勢について問うたところ（第3表），21カ所で「当市は発展しつつある」との，8カ所で「当市は衰退しつつある」との回答をえた。第6図中にその結果が示されているが，南北方向の幹線道路沿いの全ての市が「発展しつつある」とされるのに対し，東西方向道路沿いの一部の市と，ルプナラヤン川沿いの定期市では，「衰退しつつある」との回答がえられた。発展要因として挙げられた主な事項（第3表参照）は，人口増加や経済発展に伴なう需要増（13カ所），交通の改善や商品作物増による市への供給増（12カ所），交通上の有利さ（11カ所）などである。これに対して衰退要因として挙げられたのは，主に交通上の不利（5カ所）や他の市との競合（4カ所）などである。したがって，市の全般的な発展傾向と，その中での市の淘汰現象が，なお継続しつつあると考えられる。

4，市の所有と管理

各市の所有と管理の状況を，市関係者への聴き取り結果にもとづいて一覧表にまとめたのが第4表である。

市の敷地の所有状況は，公有が16カ所（うち政府有14カ所，村有2カ所）に対し，私有が15カ所（うち個人有3カ所，数名の共有12カ所）と拮抗している。公有の市の中には，次節で述べるように，道路敷や堤防敷，鉄道敷を利用しているものも多く，これらを除く専用の市の広場に関しては，過半数が私有である。このような状況は，ほとんど全ての市が公有であるタミルナードとは大いに異なっており，むしろバングラデシュの状況に似ている。伝統的にベンガル地方で

は，市の所有は大地主（ザミンダール）層に属し，そこでの出市料の徴収が彼らの重要な収入源の一部であった。独立後の農地改革によってザミンダール制は崩壊したのであるが，市の私有制は未だ完全には払拭されていないと見るべきであろう。

しかしながら，市の現在の管理者は，市の所有者またはその代理人である場合は7カ所にすぎず，市委員会（*Bazār* Committee 又は *Hāt* Committee）等の委員会である場合が19カ所にのぼる。市委員会は25カ所の市で存在しており，主として市商人や市立地集落の常設店舗商人の代表によって構成されているので，商人達の利益を代弁していると考えてよい。かなりの委員会が，西ベンガル州政府及びそれを支えている左翼政党と密接な関係にあるといわれる。おそらく，長期間続いた左翼政権下にあって，市の所有権はともかく，管理権が土地所有者から市委員会へ移行するような誘導が行われたものと思われる。

売り手から出市料が徴収される市は22カ所で，残り9カ所の市では徴収されない。後者は一般に小規模な市であって，開設が比較的新しく市の育成をはかる必要のあるもの（Sluicepara, Netaji Nagar, Milan Nagar, Naikuri）か，近年衰退気味であり出市者をつなぎとめる必要があると考えられるもの（Soyadighi, Kumarganj, Gaurangapur, Purba Kola）である。

出市料が徴収されている市でも，その額は一般に少額であり，商品の量や種類によって変動するが，おおむね1日当り50パイサ以下である。これはタミルナードの調査地域の市では1ルピ（=100パイサ）以上が普通であったのに比べ，著しく異なる点である。おそらく左翼政権下で市委員会の管理の下にあって，出市料を低くおさえる力が働いているものと思われる。ただし，繁栄している市（タムルク，Maniktola, Demari 等）では出市料はやや高く，また毎日出市する者からは月決めで出市料が徴収される場合もある。

出市料の徴収の仕方も，当地域では，タミルナードやバングラデシュと大いに異なっている。後二者では，インド亜大陸の通例として，出市料徴収は入札によってそれを請負う徴税請負人（contractor）による場合が多い。これに対して当地域では，請負人が存在するのは，わずかに1例，Mathuri のムラ所有の市においてのみである。多くの市では市委員会が直接徴収する形をとっており，この点も独立後現在までに改革された点であると考えられる。

市の設備の維持・管理は，当然市の管理者の仕事である。しかしながら，出市料が徴収されなかったり，徴収されても低額であるせいか，次節でも見るように，当地域の設備は著しく不備であり，過半（16カ所）の市で設備と言えるものは存在しない。

一方，市の清掃については，22カ所の市で特定の清掃人がいて，その一部（4カ所）では彼らに現金の給与が支払われている。しかし残り大部分は，いわゆる伝統的掃除人（sweeper）であり，清掃サービスへの反対給付として，出市者からごく少量ずつの商品が与えられる。この他，出市者自身が清掃する市が1カ所，特別に清掃を行わない市も8カ所ある。

第4表 市 の 所

名称	所有者	管理者	委員会の存在
Banpur	半分私有（3名），半分公有	——	市委員会
Soyadighi	私有（3名）	私人（所有者）	〃
Mathuri	村有	——	な し
Sluicepara (Dhalhara)	公有（堤防敷）	市委員会の役員	市委員会
Kashipur	公有（道路敷）	〃	〃
Kanktya (Nonakuri)	公有	〃	〃
Demari	私有（4名）	商人組合	商人組合
Narayandari	公有	市委員会の役員	市委員会
Maniktola	公有	〃	〃
Tamluk	公有	〃	〃
Kalatola	私有（3名）	な し	な し
Mecheda	公有（鉄道敷）	市委員会の役員	市委員会
Ramtarak	私有（7名）	私人	〃
Harashankar Garkilla	公有（堤防上の道路敷）	市委員会の役員	〃
Netaji Nagar	公有（ 〃 ）	〃	〃
Milan Nagar	公有（ 〃 ）	商人組織の役員	市委員会，商人組織
Radhamoni	半分私有，半分公有	市委員会	市委員会
Kumarganj	私有（1名）	私人	な し
Hijalberya	私有（5名以上）	——	市委員会
Gaurangapur	私有（5名）	な し	な し
Nimtori	公有（道路敷）	市委員会の役員	市委員会
Narikelda	公有	〃	〃
Daraja	私有（4名）	私人	な し
Naikuri	村有	市委員会の役員	市委員会
Purba Kola	私有（多数）	〃	——
Chansharpur	私有（1名）	私人（所有者）	市委員会
Haridaspur	私有（2名）	〃	〃
Kurpai	公有（道路敷）	市委員会の役員	〃
Dobandi	私有（5名）	〃	〃
Nikasi (Mirikpur)	私有（数名）	私人	な し
Srirampur	公有（農民委員会）	農民委員会の役員	農民委員会

〔注〕 1. 出市料の欄の Rs. はルピー，p. はナヤパイサ。1 Rs.＝100p. 2. ——は未調査

有　と　管　理

出　市　料	設　備	清　掃
25，50，100p.	な　し	伝統的掃除人
徴収せず	〃	〃
野菜売り10p. その他25p.	〃	〃
徴収せず	〃	行　わ　ず
10～25p.	——	伝統的掃除人
野菜売り Rs. 3/月	トイレ，飲料水ポンプ	掃除人（給料制）
25～100p.	な　し	伝統的掃除人
10～25p.	あ　り	掃除人（給料制）
20～100p.	——	伝統的掃除人
Rs. 1～3	あ　り	掃除人（雇い人）
ビーテルリーフ10p. その他50p.	な　し	伝統的掃除人
小屋掛けの者からのみ徴収	トイレ2カ所	〃
小屋掛けの者20～70p. その他25p.	トイレ2カ所	〃
徴収せず	な　し	行　わ　ず
小屋掛けの者からのみ Rs. 2～3/月	あ　り	〃
徴収せず	トイレ，シャワー，井戸	〃
織物売り25～50p. 同買付人 Rs. 5～7	——	——
徴収せず	な　し	行　わ　ず
10p.	〃	伝統的掃除人
徴収せず	〃	〃
5 p.	ト　イ　レ	行　わ　ず
5～10p.	日　除　け	伝統的掃除人
20p.	な　し	売り手が清掃
徴収せず	ト　イ　レ	掃除人（給料制）
〃	〃	伝統的掃除人
10p.	〃	行　わ　ず
日除けの使用者からのみ Rs. 7/月	な　し	伝統的掃除人
10，50p.	——	〃
5～10p.	な　し	〃
5～25p.	〃	〃
徴収せず	〃	〃

5. 市場の構造

市が開かれる空間はどのような姿を呈しているであろうか。まず市場の平面形態から見てみると，大多数の市場は正方形又は長方形の広場である。単に広場があるだけで常設店舗を全く伴なわないか (Mathuri——第7図)，数軒のみを伴なっている場合 (Soyadighi, Gaurangapur, Daraja) もあるが，多くは数十軒の常設店舗群を伴なっており，常設店舗群が市の広場をとり囲んでいる場合 (Demari, Maniktola, Ramtarak, Kumarganj, Hijalberya—第8図, Harida-

野菜類
- ○ やさい
- ⊗ じゃがいも、たまねぎ
- ◎ 花
- ⊙ 種子

果物類
- ◐ 果物
- ◡ バナナ
- ◠ ココナツ
- D ナッツ

穀物・豆類
- □ 米
- ⊡ 穀物一般
- ⊡ 豆
- ⊡ 小麦粉
- ⊠ 飼料

調味料・嗜好品
- ◇ スパイス
- ◇ 干とうがらし
- ◇ 塩
- ◇ 粗糖
- ◇ さとうきび
- ◇ ビーテルリーフ
- ◇ タバコ
- ◇ 石灰
- ◇ 茶

食料品一般
- ⊠ 食料品一般

肉・魚類
- ⊳ 魚
- ⊲ 干魚
- ☆ 肉
- ★ 卵

家禽類
- ◁ 鶏

木材・竹等
- Λ 材木
- Λ 薪、石炭
- ↑ 竹
- △ ジュート、ジュートの茎
- V わら

加工食品
- B パン
- C 菓子
- D 清涼飲料、アイスキャンデー
- E スナック
- F 炒り米
- O 食用油

工芸品
- P 土器
- T 竹製品
- G 魚取りかご
- N 漁網
- A マット、カーペット
- R ロープ
- W はきもの、くつ
- U 家具
- I 鉄器、刃物
- J 銀細工、宝石
- L 楽器

工業製品(消費財)
- Bg うでわ
- Or その他の装身具
- Co 化粧品
- De 祭礼用飾り物
- St 文具、雑貨
- Bk 本、カレンダー
- Sp スポーツ用品
- Ut 金物
- La ランプ
- Tr かばん、トランク
- Ml マットレス、ふとん
- Cl 布一般
- Cs サリー
- Cg ルンギ
- Cb ベッドシーツ
- Cp まくらカバー
- Ca ふとんカバー
- Cn ナプキン
- Cc チャドル
- Mn かや
- Re 既製服
- Gl めがね
- Wa 時計
- El 電気器具
- Cy 自転車、同部品
- Au オートバイ、自動車部品

第7～9図の凡例（その1）

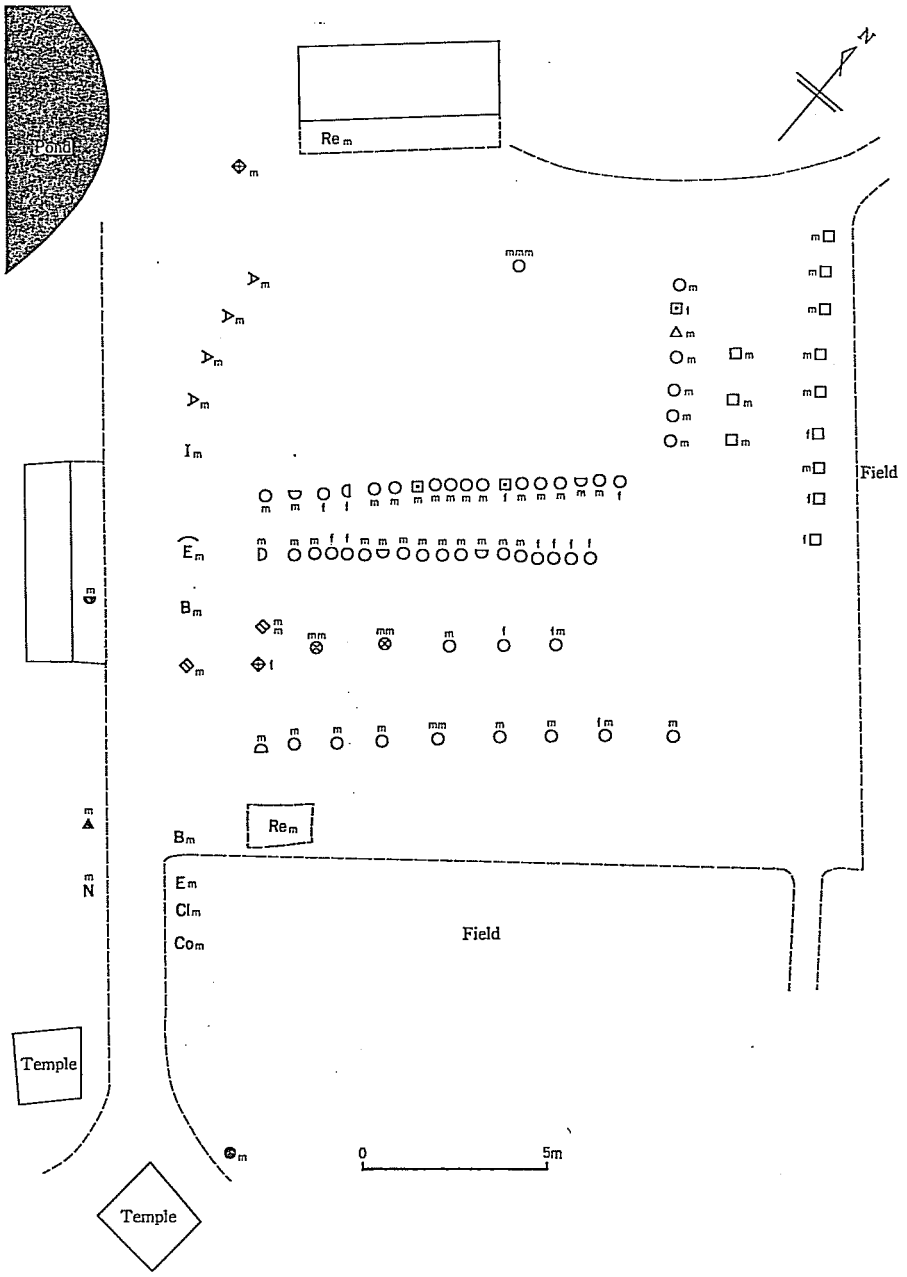
spur, Srirampur）もある。

これに対して一部の市は，専用の市の広場を持たず，道路敷，運河・河川の堤防敷，鉄道用地の一部を利用して開かれている。純粋の道路敷を利用している例は，Kashipur, Nimtori Kurpai（第9図）であるが，最後者の場合，市の部分で道路がやや広くなっている。いずれの場合も道路の両側に常設店舗群を伴なっている。運河・河川の堤防敷の場合は，堤防の上を道路が走っており，その一部を利用して市が開催されている。Sluicepara, Harashankar Gorkilla,

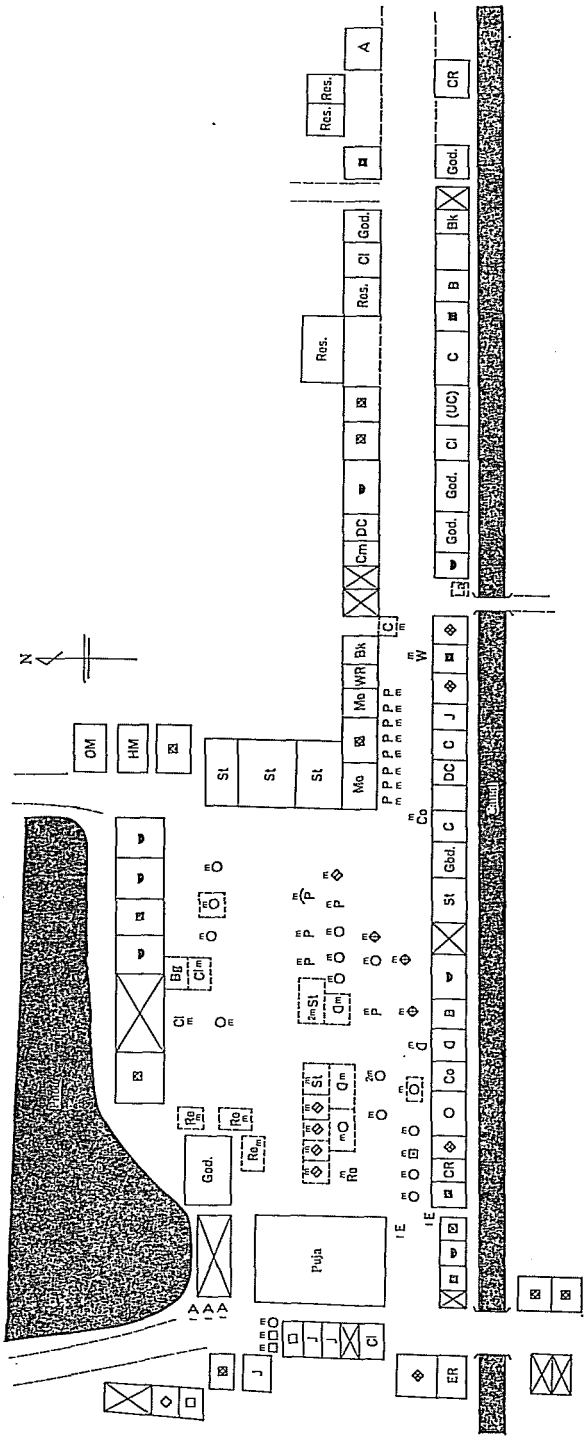
Me 薬
Mt 伝統的薬
Ke 灯油
Ga 燃料ガス
Lo 宝くじ
Fw 花火
To おもちゃ
工業製品(生産財)
Fe 化学肥料
Am 農薬
Ag 農機具
Th 糸
We 織物機器
Ma 機械、同部品
Pa 塗料
Cm 荒物、建築用材
伝統的サービス
かじや
金銀細工師
宝石みがき
かご・かさ・ランプ修理
はきもの修理
仕立屋、ミシン加工
散髪屋
せんたく屋
神像製作
絵師
大工
染物屋
占師
茶店
簡易食堂
近代的サービス
ER 電器修理
WR 時計修理
CR 自転車修理
AR 自動車修理
MR 機械修理
RM 精米所
HM 脱穀所
WM 製粉所
OM 製油所
BA 製パン所
GE 自家発電サービス
GS ガソリンスタンド
PR 印刷所、製本所
CS コピーサービス
PH 写真屋
TY タイプサービス
AS 娯楽機器サービス
DC 医者、医療サービス
DE 歯医者
VD 獣医
LW 弁護士
BN 銀行、金融業
FP 配給店
CO 協同組合店舗
HO 宿屋
CI 映画館
SC 各種学校
その他の施設
Res. 民家
God. 倉庫
Wor. 作業場、工場
Ofi. 事務所
Gov. 官公署
Bus. バス待合所
Toi. トイレ
Wat. 水飲場、井戸
(UC) 建築中の建物

使用されている建物
閉鎖中の建物
テント、日除け、上屋
傘を使用した出店
自転車、荷車を使用しての出店
大樹
河、運河と橋
池
未舗装道路
舗装道路
崖、堤防
m 男性の売り手
f 女性の売り手

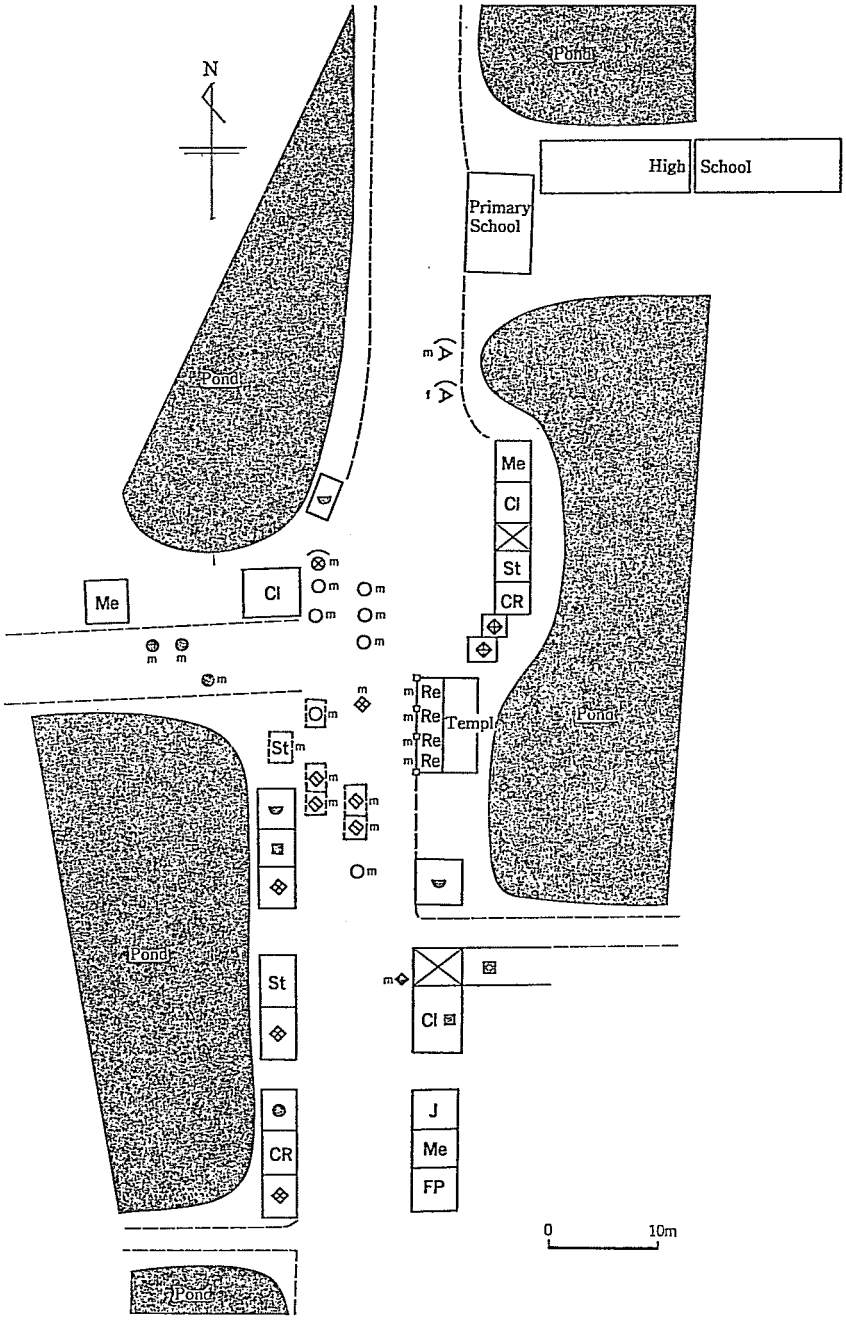
第7～9図の凡例（その2）



第7図　Mathuri の市の平面図
——1987年10月19日（月）午前7時半～8時——



第8図　Hijalberiya の市の平面図
——1987年10月7日（水）午前10時～11時——



第9図　Kurpai の市の平面図
——1987年9月18日（金）午前10時30分——

Milan Nagar, 及び Netaji Nagar がこの例である。道路の両側にはバラック風の常設店舗の列が並んでいるが，いずれも不法占拠によるものである。鉄道用地の一部を利用している例としては，メチェダ駅の広大な用地の一部を占拠し，鉄路に沿って細長く拡がっている，メチェダの市がある。この市は毎日市化しているため，出店は露店から次第に仮設の建物へと移行しつつあるが，この場合も当然不法占拠という事になる。これらの市では，道路・堤防・鉄道用地の利用ないし占拠について政府から黙認を得ることが，市委員会の重要な仕事となっている。

規模が大きく複合的な機能を持っている Radhamoni 市では，市が開かれる空間が数カ所に別れている。即ち野菜や雑貨等の一般の商品は古くからの広場で商われるが，手織物製品の集荷市は幹線及び支線道路で開かれ，さらに一部の織維製品は私設の別の市場で取引されている。

次に市場の施設について見ると，前述のようにタミルナードの市と比べても一般に貧弱であると言わざるをえない。囲壁は，Radhamoni の私設織維製品市に見られる他は，Dobandi の市の一部が生垣で囲われている例のみである。売り場にプラットフォームが設けられているのは，タムルクの市に限られる。上屋を持っているのは，Kanktya とタムルクの毎日市，Radhamoni の織維製品市の場合のみで，その他では仮設的な日除け・雨除けがあるにすぎない。トイレや水飲み場（ポンプ）があるのも，ごく一部の市に限られる。ただし市の広場に面してヒンズー寺院が設けられている例があり，特にプジャ（祭）のシーズンには，たいていの市で立派な祭壇が設けられる。

さて，以上のように準備された市場の空間に，さまざまな業種の出店者が配置されるのであるが，その配置の仕方には，バングラデシュやタミルナードの場合と同様に，いくつかの原則が認められる。それらを列記すれば以下の通りである。

①出店者は業種毎に塊まって配置され，セクションを形成している。これは衛生，清掃，出市料徴収など市の管理上の便宜からでもあり，また品物を比べて購入する顧客の便宜をはかってのことでもあろう。

②最も大きく，かつ最も明瞭に形成されているセクションは，野菜・果物のそれである。小規模な市でも現われており，大規模な市では野菜と果物が別のセクションを形成する。自家製の少量の野菜・果物を売る農民と，他から仕入れた多量の商品を売る専業的市商人とからなるが，バングラデシュと異なって，ここでは前者の割合が低い。

③衣類，雑貨，装身具，スナック等は，出店数が少ないので，それぞれが単独でセクションを形成すると言うよりは，全体で一団となっていることが多い。比較的単価の高い商品なので，市場内の中心的位置か，市場の入口付近などの比較的好位置を占める。

④調味料（カレー用スパイス等）と嗜好品（タバコ，ビーテルリーフ等）とは，互に近接しながらも，それぞれがセクションをなすことが多い。やはり比較的単価が高い商品なので，③に準じて市場内の好位置を占める。

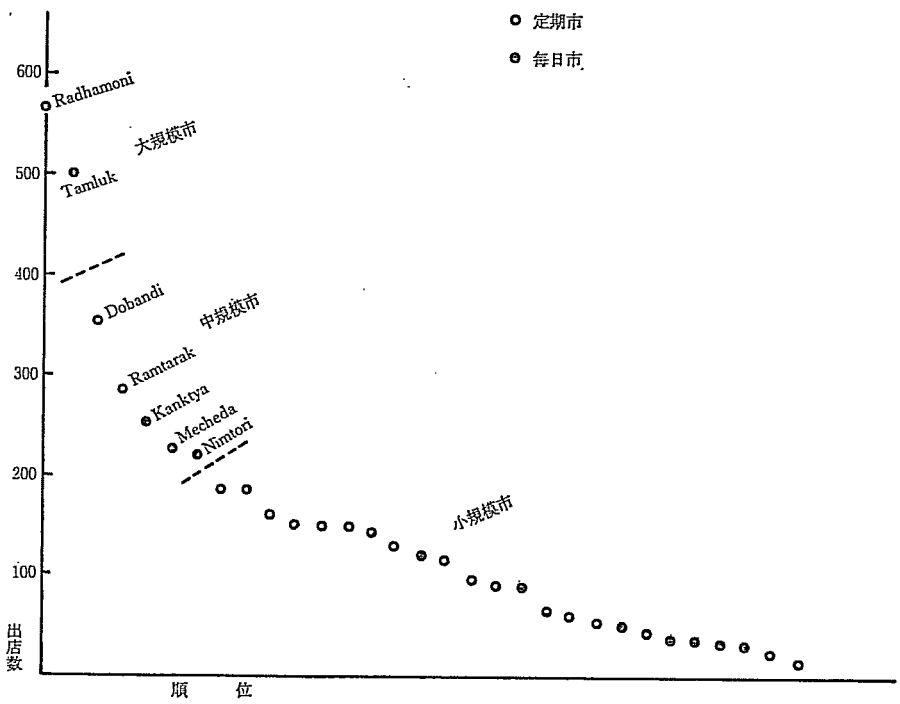
⑤これらに対して，穀物，土器，竹製品等はそれぞれがセクションを形成しつつ，市場の周辺部に位置することが多い。その理由は，これらの商品が嵩ばり，陳列するのに比較的広い空間を要し，かつ単位重量当りの価格が比較的安価なためである。

⑥魚の売り手も明瞭なセクションをなしており，その位置は同じく市の周辺部にあたる。これは衛生上の配慮と，カースト・ヒエラルキーの中で漁民カーストが低く位置づけられていることを反映しているものと思われる。なおタミルナードと異なり，ここでは肉売りはごく一部の市でしか見られないが，存在する場合には，やはり市の縁辺部に位置している。

⑦床屋やはきもの修理人のセクションも一部の市で認められ，いずれも市の縁辺部に位置する。この場合も，衛生上の配慮に加え，これらのサービスカーストがカースト・ヒエラルキーにおいて低く位置づけられていることが影響しているようである。

6. 市の規模と機能

管区内の31の市は，1日当り出店数で最小14から最大566まで，相当の規模の違いがある。そこで出店数の順位曲線を描くと第10図のように，グラフの遷急点ないし懸隔が，出店数400付近

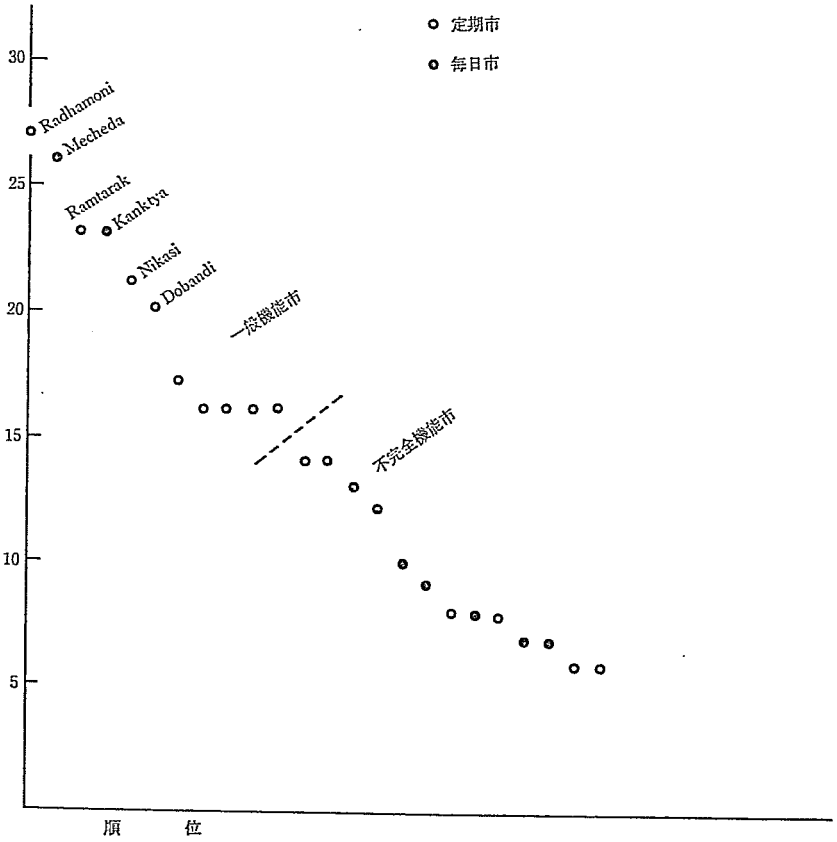


第10図　1日当り出店数の順位曲線

と200付近に認められる[13]ので，それらを境に「大規模市」(Radhamoni とタムルクの2カ所)，「中規模市」(Dobandi, Ramtarak, Kanktya, メチエダ, Nimtori の5カ所)，及び「小規模市」(その他の24カ所) を区分した。バングラデシュやタミルナードに比べると「小規模市」のウエイトが高いのが特徴的である。

なお出店数と，聴き取りから得られた市に参集する購売者の概数（第6表）とは明らかに相関しており，特に「大規模市」の Radhamoni とタムルク，「中規模市」のメチェダの市は，それぞれ1日当り5,000人以上の客を集めると言う。

一方，出店者の業種別構成を示したのが第5表である。表では実態調査から得られた様々な業種を30の業種群にまとめてある。管区内の市は，最少6業種から最多27業種を有するものまで，かなりの差異を示している。そこで業種数の順位曲線を描いて見ると（第11図)，傾斜変換線が15付近で認められるので[14]，これ以上を「一般機能市」(11カ所)，それ以下を「不完全機能市」



第11図　業種数の順位曲線

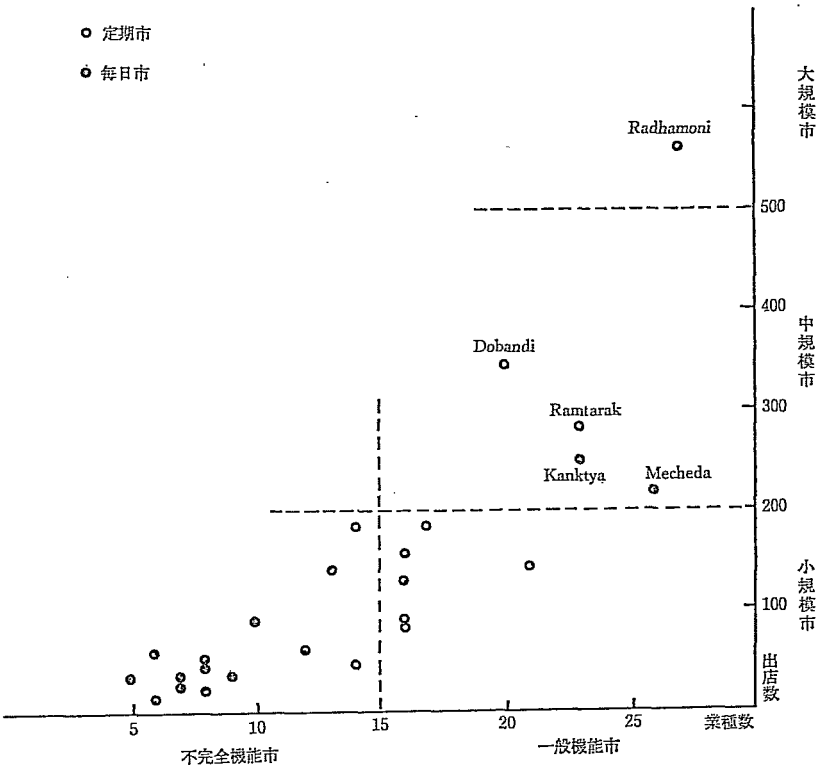
第5表 市の出店数

名称	出店数	食料・原料									
		野菜	果物等	穀物等	調味料	嗜好品	魚	肉・卵	家禽	木材・竹料 燃	菓子・食飲用 物油
1. Radhamoni	566	38	28	12	12	11	20		5	2	18
2. Tamluk	500	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
3. Dobandi	351	83	17	21	9	22	18	3	4		12
4. Ramtarak	283	68	26	12	20	8	21				7
5. Kanktya	253	60	30	29	11	5	17		1		10
6. Mecheda	226	82	19	10	6	11	9	3	3	1	4
7. Nimtori	220	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
8. Srirampur	188	69	46	22	9	3					3
9. Daraja	187	31	25	6	15	9		3		1	6
10. Kalatola	157	60	11	21	2	8	13				16
11. Nikasi	150	○		○	○	○	○	○	○		○
11. Narkelda	150	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
11. Soyadighi	150	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
14. Banpur	148	77	10	10	7	5	16				2
15. Hijalberya	132	49	1	30	5	10	15	1	1		6
16. Sluicepara	120	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
17. Netaji Nagar	115	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
18. Demari	94	38	4	11	3	1	6	1			3
19. Mathuri	93	49	7	15	2	2	4			1	4
20. Haridaspur	91	35	4	11	5	4	25				
21. Milan Nagar	64	19	7	7	4	7					2
22. Gaurangapur	60	33	2	11			12				
23. Kashipur	55	40		3		3	3				2
24. Maniktola	52	22	5	4	1	1	16				2
25. Narayandari	46	18	2	3			11				1
26. Purba Kola	38	18	3	9	1	3	1				
27. Naikuri	36	13		1	1	2	19				
28. Kumarganj	34	22	1	3			5	1	1		
29. Chansharpur	32	23	1		1	1	1				2
30. Kurpai	24	8			4	1	2				
31. Harashankar Garkilla	14	8	1	2				1			1
計		963	250	253	118	117	234	13	15	5	101
構成比		29.85	7.75	7.84	3.66	3.63	7.25	0.40	0.46	0.15	3.13

〔注〕 1. ○は当該業種の出店あり
2. —は未調査

と業種別構成

工芸品					工業製品・同原材料									サービス						計	業種数
土器	竹製品	マット・漁網	はきもの	刃鉄物器	化粧品・身具	雑貨・文具等	金物・家具等	布地	寝具等	既製服	化学肥料	灯油	繊維資材・物用	かじや	修理・かぎ・傘	修理・はきもの	仕立屋	散髪屋	食堂・茶店		
7	2	4	1	3		4	3	76	214	29	6	1	49		1	4	13	2	1	566	27
—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
18	96	3			4			8	1	10	2				6	5		9		351	20
17	8	8	1	7	10	4	2	28		21	4	5		1	2	2		1		283	23
6	4	8	7	4	3	1	2	23		16	2				7	5		1	1	253	23
6		1	3	1	3	4	3	18		14	1	2			2	5	5	2	8	226	26
—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
3		1			2			15		9	3				2	1				188	17
8	60		2		2	6		3		4	1							5		187	14
6	2			3	5	1		4		1				3		1				157	16
○	○	○	○	○	○	○		○		○					○	○	○	○		—	21
—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
10						3				4	1					2			1	148	13
2	1				2			6		1				1				1		132	16
—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
4			1		6	2		6		6	1					1				94	16
		1		1	1			1		2				1				1	1	93	10
			1	2						3						1				91	16
9					3	2		1		2	1									64	12
1																		1		60	6
								2		1				1						55	8
										1										52	8
2	1				1	1	1	2		1				1		1				46	14
										1				1				1		38	9
																				36	5
																1				34	7
3																				32	7
						1					4					1		3		24	8
												1								14	6
102	174	26	16	21	42	29	11	193	215	130	22	9	49	9	20	30	18	27	12	3,226	
3.16	5.39	0.81	0.50	0.65	1.30	0.90	0.34	6.00	6.66	4.03	0.68	0.28	1.52	0.28	0.62	0.95	0.58	0.84	0.37	100.0	

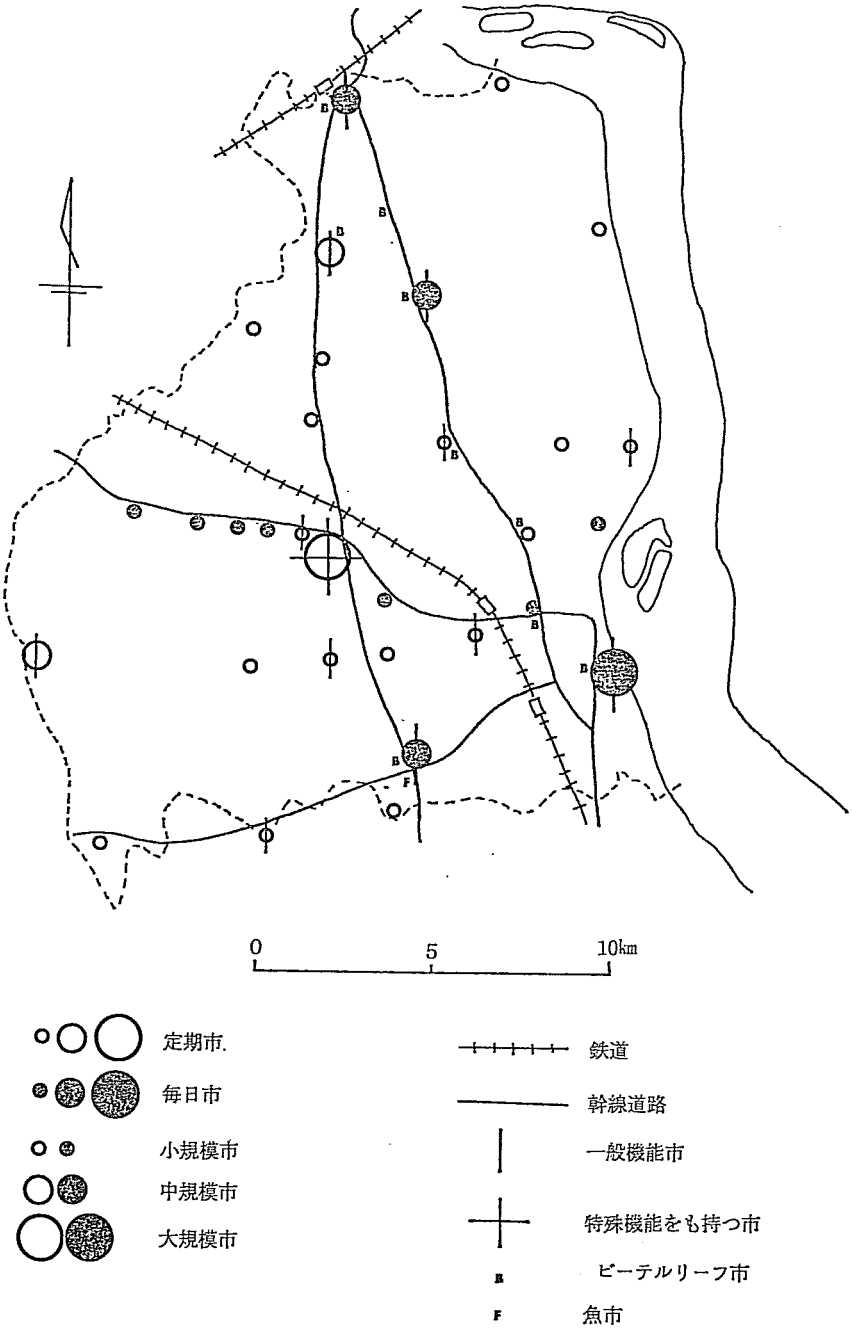


第12図 市 の 類 型 化

(15カ所) とした。バングラデシュやタミルナードに比べて「不完全機能市」の比重が大きい。

次に，上で求められた規模（出店数）と機能（業種数）による区分を組み合わせて，市の類型化を試みたのが第12図である。「大規模一般機能市」が1カ所 (Radhamoni)，「中規模一般機能市」が4カ所（メチェダ，Ramtarak, Kanktya, Dobandi)，「小規模一般機能市」が6カ所，「小規模不完全機能市」が14カ所という構成である。バングラデシュやタミルナードと比べると，「中規模一般機能市」のウエイトが低く，「小規模一般機能市」や「小規模不完全機能市」のウエイトが高いのが特徴的である。なお正確な業種数の調査が出来なかった6カ所の市については，第12図からは除いてあるが，現地での観察により，タムルクは「大規模一般機能市」に，Nimtori は「中規模一般機能市」に，Narkelda, Soyadighi, Sluicepara, Netaji Nagar は「小規模不完全機能市」に，それぞれ分類してまちがいないものと思われる。

第13図は，上で類型化された市の分布状態を示している。「一般機能市」，特に「大規模」及び「中規模」のそれが，比較的均等に配置されており，それらをぬって「小規模不完全機能市」が立地している。特に「小規模不完全機能市」たる毎日市が，タムルク～パンスクラ道路に沿って密に立地しているのが特徴的である。



第13図　市の類型別分布

第6表 市 の

名称	買い手数	同参集半径(マイル)	集荷機能	祭礼
Banpur	1,500	4～5	なし	ヒンズー
Soyadighi	250	2.5	野菜	〃
Mathuri	300	3	なし	なし
Sluicepara (Dhalhara)	2,000	2～3	〃	ヒンズー
Kashipur	400～ 500	1.5	〃	〃
Kanktya (Nonakuri)	2,000	4	〃	〃
Demari	500～ 1,000	2～3	〃	〃
Narayandari	800～ 1,550	20	〃	〃
Maniktola	500～ 700	6.25	〃	ヒンズー，ムスリム
Tamluk	15,000～20,000	10	〃	ヒンズー
Kalatola	500	5	〃	〃
Mecheda	5,000	3	〃	〃
Ramtarak	1,500	25	〃	〃
Harashankar Garkilla	(最大) 500	3.5	〃	〃
Netaji Nagar	300	1.5	〃	〃
Milan Nagar	1,000	3	〃	〃
Radhamoni	—	—	手織物	—
Kumarganj	100	2	なし	ヒンズー
Hijalberya	700～ 1,000	2	〃	〃
Gaurangapur	800～ 1,000	5～6	〃	〃
Nimtori	900～ 1,000	10	〃	〃
Narikelda	400	4	野菜，魚	〃
Daraja	1,500	16	なし	ヒンズー，ムスリム
Naikuri	500～ 1,000	2.5	野菜，魚	ヒンズー
Purba Kola	250～ 600	1.5	米，魚	〃
Chansharpur	700	4	なし	ムスリム，ヒンズー
Haridaspur	1,000	4	〃	ヒンズー
Kurpai	(最大) 2,000	3	〃	〃
Dobanadi	1,500	6	〃	〃
Nikasi (Mirikpur)	1,000	7	ココナッツ	〃
Srirampur	1,000	3.75	魚，野菜，米	〃

〔注〕 —は未調査

ところで第15表の業種別構成をバングラデシュやタミルナードの調査地域と比較すると，当地域の市の機能の特徴がある程度明らかになる。まずバングラデシュの市と類似し，タミルナードの市と異なっている点は，魚や竹製品の比重が高く，肉・卵や木製品の比重が低い点である。これらは当地域とバングラデシュとの，同じガンジス・デルタに位置することによる自然環境・生産活動の類似性によっており，また，当地域とタミルナードの調査地域（半乾燥の内陸平原に位置する）との異質性に起因している。これに対し，当地域の市の業種別構成がタミルナードの市

諸機能			
社会的・文化的機能			
娯楽	会合	裁判	その他
芝居	なし	なし	
芝居	〃	市での紛争について	
なし	政治的	まれにあり	
ビデオ，人形劇	自治的	市での紛争について	
芝居	政治的	村の紛争について	
映画，芝居	社会的，政治的	市での紛争について	
映画，芝居，手品，人形劇	政治的，文化的	商人の争いについて	政府の広報，移動病院
芝居	社会的	あり	
映画，ゲーム	政治的	各種の紛争について	
芝居	〃	あり	
映画	なし	〃	
映画，舞踊，芝居，音楽，ゲーム	〃	市での紛争について	
映画，芝居	社会的，政治的	〃	
ゲーム，ビデオ，芝居	社会的，政治的，教育的	あり	政府の広報
なし	社会的，政治的	〃	
映画，芝居，音楽	政治的	市メンバーの争いについて	
—	—	—	
映画，芝居	政治的	市での紛争について	
なし	社会的，政治的	〃	
なし	なし	なし	
ゲーム，芝居，映画	社会的，政治的	市での紛争について	
なし	政治的	〃	
舞踊	政治的，教育的	なし	行政サービス
芝居，ビデオ，音楽	社会的，政治的	市での紛争について	
ゲーム，芝居	〃	市と村の紛争について	行政サービス
なし	政治的	市での紛争について	行政サービス
ゲーム，芝居，人形劇	〃	〃	
なし	〃	社会的紛争について	
映画，芝居，音楽，人形劇	政治的，文化的	あり	
映画	宗教的	なし	
ビデオ，音楽，芝居	政治的，文化的	あり	

と類似し，バングラデシュの市と異なっている点は，野菜・果物の比重が高く，移出商品作物（バングラデシュではジュートやマスタード・シード）の比重が低い点である。これは当地域の市が，タミルナードの市と同様，地域住民への清鮮食料品の供給機能を強く持っているが，移出農産物の集荷機能をほとんど備えていない[15]ことの反映である。さらに，当地域の市はいずれも，バングラデシュやタミルナードの一部の市が持っていた家畜の取引機能を，全く欠いている点も特徴的である。

以上によって，当地域の市が，様々な業種を含みながらも，どちらかと言えば生鮮食料品の供給機能に特化していることが明らかとなった。「小規模市」や「不完全機能市」のウエイトが高いのも，このような全般的な市の性格によっているものと思われる。本地域内の幹線道路沿いに多数立地している毎日市のうち，小規模な市はとりわけこのような性格が強い。これらは，非農業的人口の集積や流動の激しい地域に，主として生鮮食料品の供給のために設けられた[16]と考えられ，古くから立地している農村地域の総合的な中心地としての定期市とは，異なった範疇で捉えられるべきかも知れない。

しかしながら，管区内の伝統的市が，集荷機能を全く欠いているわけではない。既述の通り，Radhamoni 市は，タムルク亜県一帯からの手織綿布の集荷機能を持っており，同時に織工に対する織物原材料の供給機能をもはたしている。したがって第13図では，この機能を「特殊機能」として Radhamoni 市に付け加えて表現した。また第6表に記したように，市関係者への聴き取りによれば，この他いくつかの市において，魚・野菜・米・ココナツの集荷商人が，若干名訪れることがあると言う。

以上のような経済的諸機能に加えて，伝統的市はまた，ある種の文化的・社会的機能をも担っているはずである。市関係者への聴き取り調査によれば，市場又はその隣接地で行われる文化的・社会的活動は，以下の通りである（第6表）。まず祭礼としては，ヒンドゥーのプジャがほとんど全ての市（28カ所）で開かれ，その多くは市委員会の主催で，前述のように市の広場の一角に祭壇が設けられることが多い。この他，ムスリムの多い集落の市では，ムスリムの祭りが行われることがある（3カ所）。次に娯楽的行事としては，芝居が25カ所，人形劇が4カ所，舞踊が2カ所，音楽が5カ所，手品が1カ所で催されるという。また市場に面して，あるいはその近くに映画館がある例が8カ所，ビデオ・ホールがある例が4カ所にのぼる。さらに市の広場で開かれる集会としては，政治的集会が22カ所で，社会的集会が5カ所で挙げられた。また市立地集落において，しばしば市の広場を利用して，市や村における紛争を裁き・調停する，伝統的裁判が開かれるとの答えも，27カ所にのぼった。最後に，行政府が市の集りを利用することも行われており，政府の広報・サービスが行われる例が5カ所，移動病院が開かれる例が1カ所あった。以上のように，市ないし市立地集落は，経済的活動以外の多面的な機能によっても，地域住民にとってのセンターの役割をはたしていると言えよう。

7. 市と常設店舗

ところで，対象地域には市と並んで多数の常設店舗群が立地している。筆者らは，市が立地する31集落と，市は立地しないが常設店舗の集積が見られる若干の集落について，常設店舗数とその業種別構成とを，出来るかぎり調査した[17]。その結果，管区内には少くとも4,778の常設店舗が存在することが明らかになった。第7表は，本地域とバングラデシュ及びタミルナードの調

査地域との比較を示したものであるが，本地域には人口比でバングラデシュより4倍以上，タミルナードよりも1.7倍以上も，常設店舗が立地していることになる。

これに対して，前述のように当地域の市は概して小規模で，開市日1日当りの出店数は多くはない。しかしながら一方で，当地域の市は毎日市や週2回の定期市が多く，開催頻度が著しく高い。したがって，各市について1日当り出店者数に週間開催頻度を乗じて週間延べ出店者数を求め，その管区内の和を求めると，第7表に示したように17,057店となる。この数値を人口比になおして比べて見ると，第7表から読みとれるように，タミルナードの約3倍で，バングラデシュの数値をも上まわる。したがって当地域は，市に関しても活発な活動が行われている地域であると評価されるのである。

それでは，市と常設店舗との相対的重要性はどうであろうか。この事を評価するために，管区内の週間延べ出店者総数を7で割り1日平均出店数を算出すると，2,437店となる。これは毎日開店していると考えられる常設店舗4,776店の約半分の値にすぎない。したがって，当地域においては，常設店舗商業が市商業に比べより重要な地位を占めていると考えるのが妥当であろう。この点は，第7表で示されるように，市の方が常設店舗商業より依然として重要であるバングラデシュの状況とは大いに異なっており，市よりも常設店舗商業が優位に立っているタミルナードの状況に類似している。ただし，第7表から判るように，常設店舗商業の市に対する相対的優位の程度は，タミルナードの方がより高いとは言えよう。

むしろ当地域の特徴は，第7表から読み取れるように，常設店舗も著しく発達し，なおかつ市活動も活発な点にある。商業活動の全体としての活況は，前述のように当地域がカルカッタ大都市圏の外縁部に位置しその影響を受けていること，当地域の住民がビーテル・リーフの栽培や手織物工業を通じて商品経済に強く組み込まれていること等によって説明されよう。しかし，常設店舗商業と市商業のこのような併存は，どのように説明されるであろうか。

まず第1に考えられることは，両者が異なった商品やサービスを提供することにより補完関係にあるのではないかという点である。第8表は管区内の常設店舗の業種別構成を，調査した限りにおいて示したものである。これを前述の市の出店の業種別構成（第5表）と比較すると，その構成比に大きな違いがあることが明らかである。すなわち常設店舗は市の出店に比べ，野菜，果物，穀物，魚，各種工芸品，装身具・化粧品，布地，既製服，はきもの修理などの構成比が低く，一方，食料品・調味料，嗜好品，肉・卵・鶏，木材・竹，菓子・飲物，はきもの，家具，金物・ランプ，雑貨・文具などの構成比が高い。特に宝石，時計・めがね，電気器具，自転車・オートバイ，自動車修理，機械・同修理，精米所等，ガソリンスタンド等，印刷所等，写真・複写，医者，協同組合店，宿屋・映画館などの主として高次財は，常設店舗でのみ出現する。したがって常設店舗商業は，市商業に欠けているもの，あるいは弱体なものを補完しており，他方市商業は常設店舗商業があまり扱わぬもの（特に生鮮食料品）を補完している，という関係を認め

第7表 常設店舗数

集落名	常設店舗 総数	食料・原料 野菜	果物等	穀物等	調食味料料品	嗜好品	魚	肉鶏・卵	木竹材等	菓物・子食・用飲油
1. Tamluk	1,848	64	12	85	75	102	15	55	14	96
2. Mecheda	648	7	21	18	31	82	29	4	3	31
3. Radhamoni	565	—	—	—	—	—	—	—	—	—
4. Kanktya	175	2	2	3	3	14		3		13
4. Ramtarak	175		2	7	14	17			1	4
6. Demari	150	1		5	6	7			1	3
7. Nimtori	111	8	2		5	19	1	3	6	10
8. Burari	100	—	—	—	—	—	—	—	—	—
8. Maniktola	100	—	—	—	—	—	—	—	—	—
10. Purba Kola	80		1	3	4	9				2
11. Mi:an Nagar	79	4	1	2	5	7				3
12. Hijalberya	63	1	1	3	9	6			2	3
13. Kumarganj	60			2	4	7		2		3
13. Naikuri	60				2	4		1	1	1
13. Haridaspur	60	1			4	2				
16. Netaji Nagar	56	3	1	1	8	6		1		5
17. Chansharpur	51	2		1	5	6		2	2	1
18. Nikasi (Mirikpur)	50	—	—	—	—	—	—	—	—	—
19. Sluicepara	45	—	—	—	—	—	—	—	—	—
19. Dobandi	45		1	1	1	5				
21. Kalatola	34			6	5	5				2
22. Banpur	33			2	3	5				1
22. Srirampur	33			1	5	4				1
24. Kashipur	30				4	5			1	3
25. Kurpai	26				1	2			1	
26. Harashankar Garkilla	21				2	5				1
27. Narayandari	20			1	1	1				1
28. Narkelda	17	—	—	—	—	—	—	—	—	—
29. Gaurangapur	15				2					
30. Soyadighi	10				4					
31. Daraja	2			1						
32. Mathuri	0									
合計	4,762	93	44	142	190	320	55	71	32	184
構成比		2.47	1.16	3.77	5.04	8.49	1.46	1.88	0.85	4.89

と業種別構成

工芸品				工業製品								
各種工芸品	はきもの	家具	宝石	化粧品	装身具	雑貨	文具等	金物	ランプ等	布・糸	寝具	既製服	時計	めがね	電気器	自転車	オートバイ	自動車	同修理
7	26	15	49	12		91		14		76		53	31		67	52		31
8	11	9	10	7		36		11		35		20	7		15	18		12
—	—	—	—	—		—		—		—		—	—		—	—		—
1	3	1	3	1		31		3		12		5	2		7	5		
	1		7			7				1					4	5		1
1			1	3		11		1		11			1		1	1		
	1	2	1			8				9					1	5		
—	—	—	—	—		—		—		—		—	—		—	—		—
—	—	—	—	—		—		—		—		—	—		—	—		—
	1		2	1		1				3						3		
		6	3			3				1					1	5		
			4	1		4				3		1	1		1	2		
			1			4				9		2			1	1		
		3				2		1							1	1		
			2	1						1								
			1			3				1			1		1	1		
						3				2					2	2		
—	—	—	—	—		—		—		—		—	—		—	—		—
—	—	—	—	—		—		—		—		—	—		—	—		—
1			1			7		2		4					2	3		
										3						1		
		1	2			1				1						2		
				2		2				3					1	1		
	1					1										2		
			1			2				3						2		
						2				1						2		
			1			1									1	1		
—	—	—	—	—		—		—		—		—	—		—	—		—
18	44	37	89	28		220		32		191		81	43		106	115		44
0.49	1.16	0.98	2.36	0.74		5.84		0.85		5.07		2.15	1.14		2.82	3.05		1.16

(第7表のつづき)

集落名	工業製品					伝統的			
	薬	灯燃油料	農資用料	機同修械理	建資築材	かじや	はきもの修理	仕立屋	散髪屋
1. Tamluk	114	148	5	74	62	11		76	31
2. Mecheda	12	2	2	12	17	2	4	37	22
3. Radhamoni	—	—	—	—	—	—	—	—	—
4. Kanktya	9		3		2	2		11	6
4. Ramtarak	4		1		4	2		2	6
6. Demari	12		2		1			4	7
7. Nimtori	3		1	1	1	3		5	3
8. Burari	—	—	—	—	—	—	—	—	—
8. Maniktola	—	—	—	—	—	—	—	—	—
10. Purba Kola	3		1			1		3	2
11. Milan Nagar	7			1	1	2		8	5
12. Hijalberya	2				1			5	1
13. Kumarganj	7	1		1				2	2
13. Naikuri	1		1		1			1	2
13. Haridaspur	1								1
16. Netaji Nagar			1		1	1		6	2
17. Chansharpur	3		1				1	7	1
18. Nikasi (Mirikpur)	—	—	—	—	—	—	—	—	—
19. Sluicepara	—	—	—	—	—	—	—	—	—
19. Dobandi	4		1					4	1
21. Kalatola	2				1			3	2
22. Banpur	1					2		3	2
22. Srirampur	3							2	2
24. Kashipur	2							2	3
25. Kurpai	3							1	1
26. Harashankar Garkilla								1	2
27. Narayandari	1					1		2	1
28. Narkelda	—	—	—	—	—	—	—	—	—
29. Gaurangapur									
30. Soyadighi	1								
31. Daraja									
32. Mathuri									
合計	195	151	19	89	92	27	5	185	105
構成比	5.17	4.01	0.50	2.36	2.44	0.72	0.13	4.91	2.78

〔注〕

1. 業種別店舗数の合計が常設店舗総数に必ずしも一致しないのは，業種が未確認の店舗があるため。
2. Radhamoni, Burari, Nikasi, Sluicepara, Narkelda の業種別構成は未調査。
3. Maniktola の業種別構成は Tamluk のそれの内に含まれる。

サービス			近代的サービス								計
屋せんたく	その他のサービス	茶食店堂	精米等	ガソリン等	印刷等	写真写復	医院等	銀行等	協同組合店	宿屋映画館	
26	29	160	41	15	27	20	49	3	11	4	1,948
4	6	64	2	2	4	7	19	3		2	648
—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	2	21	1		1	1	1			1	175
1	2	13	3				4				125
	1	10	2				1			2	96
1		12									111
—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
		8					1				49
	1	8	1				4				79
	1	7	2				2				63
2	1	5			1		1	1			60
1		6	1		2		1		1		35
		3									16
		5		1			4	1	1		56
		6	2				2				51
—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	1	5					1				45
		4									34
		6							1		33
	1	5									33
		2					3		1		30
		4							1		22
		2					3				21
		4					2		1		20
—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
		1									3
		3							2		10
		1									2
											0
35	45	365	55	18	35	28	98	8	19	9	3,765
0.93	1.19	9.69	1.46	0.49	0.93	0.74	2.60	0.21	0.50	0.24	100.0

第8表　3地域における市と常設店舗の相対的重要性

	バングラデシュ ミルジャプール郡	タミルナード州 ナーマッカル郡中部	西ベンガル州 タムルク警察管区
人口	32.4万	34.7万	29.4万
(年次)	(1984)	(1981)	(1981)
常設店舗数	1,200	3,300	4,776
(同人口1万人当り)	(37.0)	(95.1)	(162.4)
週間延べ市出店数	16,721	6,620	15,975
(同人口1万人当り)	(516.1)	(173.5)	(543.4)
1日平均市出店数	2,389	860	2,282
(同人口1万人当り)	(73.7)	(24.8)	(77.6)

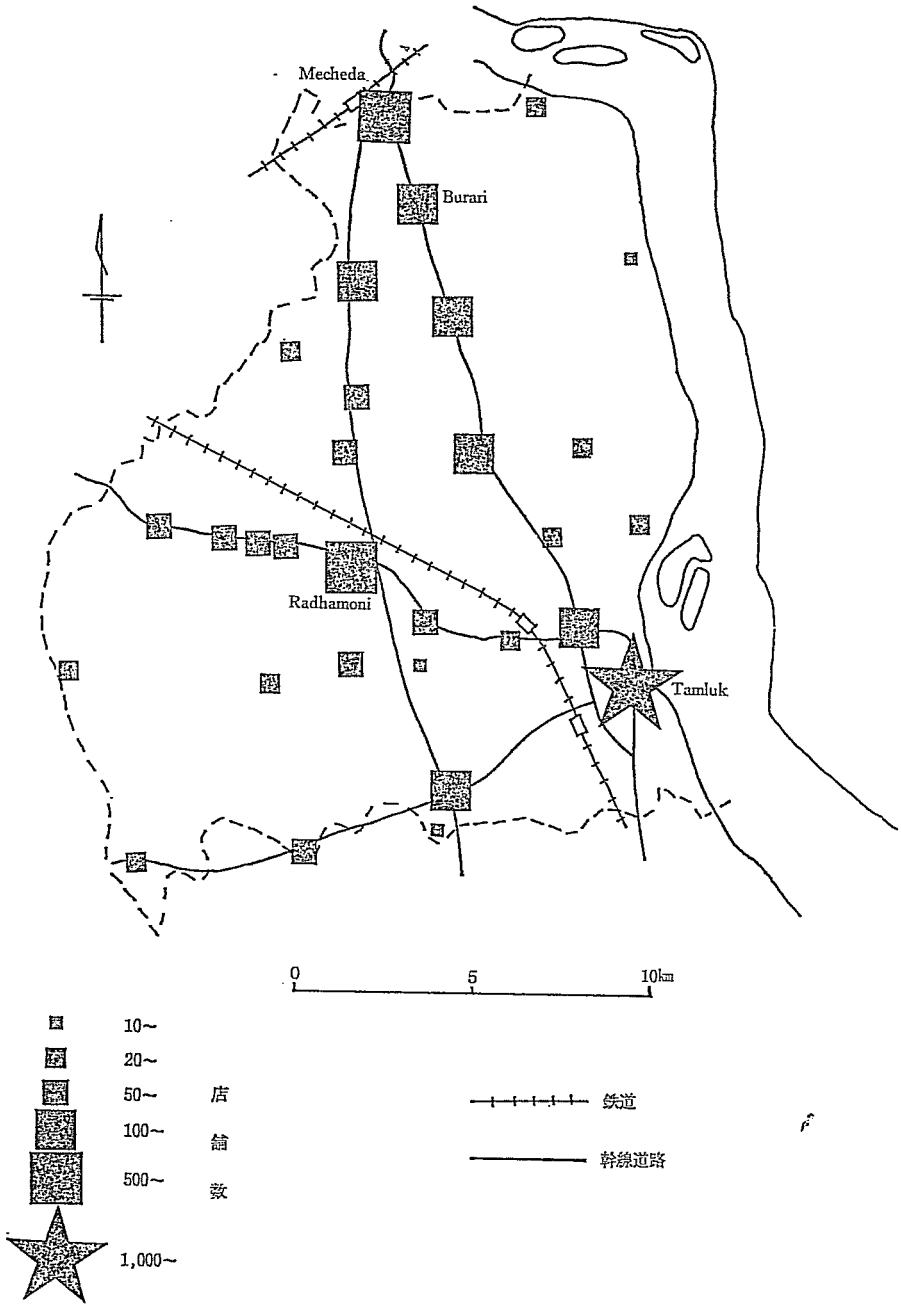
ることができる。

しかしながら，上記のように構成比には差異があるものの，かなり多数の業種が，市と常設店舗の双方に出現するのも事実である。同一業種が，同一集落に属する市と常設店舗の両方に見られることもめずらしくなく，その場合，どちらを利用するかは顧客の側の選択による。これについては，すでに先学が指摘し[18]，我々もタミルナードにおいて確認した[19]ように，住民のうち，より貧しい層が市を利用し，より上層が常設店舗を利用するという関係の存在が想定される。市では一般に低品質だが安価な商品が提供されるのに対し，常設店舗では商品は一般により高品質だがより高価であるからである。また常設店舗は後述のように相対的に上位集落に集中する傾向があるので，その利用にはより多くの時間や費用がかかる点も無視出来ない。当地域には多数の零細な耕作農民・農業労働者及び低所得の手織物産業者がいる。しかし他方ではビーテル・リーフ生産農民・織物流通業者・タムルクやメチェダに居住する中産階級など，比較的高所得の住民も少くない。市商業と常設店舗商業の併存状況は，このような住民の階層分化によっても説明されるかも知れない。ただし，その証明には購買者の行動に関する分析を待たねばならないので，ここでは結論を保留にしておきたい。

最後に第14図は，管区内における常設店舗の分布状況を示している。市の規模や類型別分布を示した第10，13図と比較検討した場合に，読みとれるいくつかの点を列挙すれば，以下の通りである。

①市立地集落のほとんど全てにかなりの規模の常設店舗群が認められ，逆に市の立地しない集落で相当規模の常設店舗群を持つものは，Burai などごくわずかである。したがって，伝統的市が常設店舗により構成される恒常的中心地の形成に大いに寄与したものと推測される。

②一般に常設店舗は，市の出店の場合に比べて，より上位の中心への集積の程度が高く，最上位のタムルク，これに続くメチェダ，Radhamoni 等が大きな集積地を形成している。したがって，タムルクの中心商店街は長大でかつ都市的な景観を持つに至っている。メチェダは未だ発展途上で，Radhamoni は市日以外は閑散としているが，いずれも町場の景観を呈している。



第14図　常設店舗群の分布

③一般に幹線道路沿いの常設店舗群の規模は，それをはずれた群の規模に比べかなり大きく，その違いは伝統的市の場合に見られた以上に顕著である。近代的交通手段が常設店舗の立地により強く働いていると言えよう。

④一般にビーテルリーフ，魚，手織物の集荷市を伴なう集落においては，特に大規模な常設店舗群が形成されており，商品生産物の販売による収入が，これらの集落の中心地としての発展を支えていると推測される。

8. むすび

以上，西ベンガル州タムルク警察管区における市の分布とその諸特性について論じて来たが，本稿で明らかにされた主要な点を以下に列記し，結論に代えたい。

①当地域においては，主として週2回開催の定期市が空間的・時間的にほぼ均等に配置されており，加えて毎日市が幹線道路に沿って立地している。市の分布密度及び平均開催頻度は著しく高い。

②19世紀末以来の市の立地は，交通路の変遷に大きく規定され，一方での新設・発展，他方での衰退・消滅が見られた。この間，市の開催頻度は次第に上昇した。

③市場の所有に関しては私有のものが多く，ベンガル的特質が認められるが，市の管理については市委員会が行っている場合が多く，出市料は一般に低額で，徴税請負人もいない反面，市の設備は極めて貧弱である。

④市は専用の方形の広場で開かれる場合と，道路・堤防・鉄道敷を利用して開かれる場合とがあり，一部の市は上屋の下で開かれる。市場内の出店者は業種毎にセクションをなし，各セクションは商品やサービスの価格や体積，衛生上の配慮やカースト関係を反映して，一定の原則にしたがって配置されている。

⑤市はその規模によって「小」「中」「大規模市」に，その機能によって「一般機能市」と「不完全機能市」に分けられ，両者の組み合わせによっていくつかの類型に区分される。当地域では「小規模不完全機能市」が相対的に多いのが特徴的である。Radhamoni 市を除いて，伝統的市の集荷機能も弱い。しかし市ないし市立地集落は，経済的機能以外の文化的・社会的機能をもはたしている。

⑥当地域は，市活動と常設店舗商業の両者が共に活発な地域と評価されるが，現在では後者のウエイトがより大きい，両者は機能的に補完関係にあると共に，それぞれ異なった社会階層によって支えられているという側面も考えられる。市の存在が常設店舗の集積をもたらした場合が多く，市は恒常的中心集落の形成に寄与してきたと言えよう。

〔注〕

1) Ishihara, H., ed. *Markets and Marketing in Rural Bangladesh*, Dept. of Geography, Faculty of Letters, Nagoya Univ. 1987

2) Ishihara, H., ed. *Markets and Marketing in South India*, Dept. of Geography, Faculty of Letters, Nagoya Univ. 1988

3) 前掲 1)

4) 前掲 2)

5) 米倉二郎編著「インド集落の変貌」古今書院，1973

6) 石原は1968年及び1984年に，溝口は1984年にそれぞれ短期間であるが現地を訪れたことがある。石原の1968年の訪問による成果は，
石原　潤，西ベンガル州ミドゥナポール地区における定期市——予察的検討——人文地理，21巻4号，1969

7) メチェダ駅付近からはハウラー方面への通勤も可能である。なおメチェダ駅前にはカルカッタ大都市地域向けの巨大な火力発電所がある。

8) 1961年センサスによれば，耕作農民中48.7%が1エーカー未満の保有層で，これに1～2.4エーカー保有層を加えれば，83.5%に達する。

9) この他タムルクの町内には，一部の街区を商圏とするごく小規模の毎日市が数ヶ所で見られるが，本稿では対象外とした。

10) India Office Library 所蔵の1880年発行の One Inch Maps と，聴き取り結果等とにより作図。

11) British Library, India Office Library 所蔵の 1931～1933 年発行の One Inch Maps と，聴き取り調査結果等により作図。

12) 1961年及び1971年センサスと聴き取り結果等により作図。

13) 遷急点又は懸隔は，タミルナードの調査地点では500付近と200付近，バングラデュのそれでは900付近と200付近に認められた。

14) 遷急点は，タミルナードの調査地域では 13/14 に，バングラデシュのそれでは 14/15 に認められた。

15) ただし既述のように，当地域の移出商品作物たるビーテルリーフについては，専門の集荷市が，いくつかの伝統的市に隣接して設けられている。

16) したがって，これらの市の観客の参集圏は一般に狭い（第6表参照)。

17) タムルクの町については，営業税の課税対象リストによった。他の集落については現地調査によった。

18) Harris, B. Social Specificity in Rural Weekly Markets——The Case of Northern Tamil Nadu, India, *Paper Submited to the Symposium K—28 of the 23rd I.G.C.*, Moscow, 1976
Bohle, H.-G. Factors Influencing Spatio-temporal Behaviour in South Indian Weekly Market System, *Paper Submited for Seventh European Conference on Modern South Asian Studies*, London, 1981

19) Thekkamalai, S. S., The Dynamics of Buying and Selling in Rural Weekly Markets, in Ishihara, H., ed. op. cit. 1988

謝　辞

本稿は昭和62・63年度文部省科学研究費・海外学術研究「インド亜大陸農村における市とそれをめぐる商人集団の研究」（研究代表者・石原　潤）による成果の一部である。記して感謝の意を表したい。